

せたがやの文化財

編集 世田谷区教育委員会事務局
発行 生涯学習・地域学校連携課文化財係

〒154-0016 世田谷区弦巻3-16-8
Tel 03-3429-4264 Fax 03-3429-4267
<https://www.city.setagaya.lg.jp>

発行日 令和5年3月31日

No.035

再生紙を使用しています



整備された庚申公園

下馬五丁目庚申公園が開園しました

令和4年3月、下馬五丁目25番1号に「下馬五丁目庚申公園」という小さな公園が開園しました。園内には3基の石造物が置かれ、これらを保護するため、5月には新たな覆い屋も完成しました。覆い屋に向かって右側は、猿が石に腰掛けた姿をしているお猿庚申です。元は下馬の寺院にありましたが、明治28年（1895）に寺が目黒へ移転する際、地元の人を取り戻したそうです。像が造られたのは、今から約350年前の寛文11年（1671）で、区内でも古い石造物の一つです。

左側は、青面金剛像と三猿を彫り出す典型的な庚申塔です。下馬五丁目14番付近の塚に祀られていたものを、区画整理のため移動したものです。東山谷庚申といい、元禄7年（1694）に造られた歴史を感じさせる石造物です。残る1基は上部が欠損し年代不詳ながら「（庚）申供養 下馬引沢村」の文字が読み取れます。

かつて農村では、春と秋の「かのえさる」の日の夜に集まり、眠らず過ごす庚申講という行事がありました。徹夜するのは、「庚申の日の夜には三戸という虫が人体を抜け出て天上の神にその人の悪事を告げに行き寿命を縮める」と信じられていたためです。村の人々が、皆でお金を出し合って建てたのが庚申塔です。

公園になる以前は、庚申像を祀る講（組合）の行事をお堂の前で開き、お囃子の演奏もされたそうです。このたび、土地が区に寄贈され、公園として整備されました（石造物は教育委員会が管理）。庚申塔も、覆い屋の中から再び地域を見守ってくれています。



かつての庚申堂（左右とも）

区指定有形文化財

安藤家住宅内倉の漆喰壁修理

今年度の区指定文化財保存修理事業として、安藤家住宅内倉の外壁修理工事を行いました。

○安藤家住宅と内倉

安藤家は、江戸時代に大蔵村の名主を勤めた、大蔵に古くから続く家の一つです。

現在、主屋と外倉（内倉として復原）は、区立次大夫堀公園民家園に移築され、かつての名主家の屋敷構えを復原し公開しています。内倉と表門は大蔵の地に残り、今も屋敷の中に佇んでいます（非公開）。

平成5年（1993）、名主屋敷を構成する要素として、主屋、内倉及び表門が区指定有形文化財に指定されました。今回の工事では、この内倉を長く維持保存していくために、大きく傷んだ箇所を修理しました。

○内倉及び修理の概要

内倉の規模は、東西に長く桁行3間（5.49m）、梁行2間（3.65m）、総2階建てで1階西側に観音開きの出入口、東側2階には観音開きの扉を設けています。1階の漆喰壁に「稲田村登戸 明治廿八年九月廿四日左官松五良」と線書きが残されていることから、明治28年（1895）に建てられたと考えられています。

左官とは、土壁を塗る職人のことで、今回の工事もすべて左官職人によって修理が行われました。

○破損の原因

特に傷みのひどかった箇所は、足元の基礎周辺部分です。また、2階の扉も同様に仕上げの漆喰が剥がれ落ちていたため、南側の腰壁部分と2階の観音開きの扉の2か所を修理しました。基礎の周辺は、屋根からの雨の跳ね返りが多い場所なので、漆喰が剥がれて内部の下塗りの層まで流れてしまったと考えられます。漆喰が防水の役割を果たしているため、修理を行わないとさらに崩れてしまい、構造部材の腐朽を早めてしまいます。なお、今回は主に仕上げの漆喰壁を修理するための工事で、躯体の下地の改修は行っていません。

○漆喰壁の修理手順

左官工事は、5月に修理箇所の壁を剥がすことから始まり、新たに下塗り、中塗り、上塗り重ねていきます。それぞれ仕上げの材料が違い、南面の腰壁は土佐漆喰、2階扉は黒漆喰を上塗りに使っています。土佐漆喰は通常の漆喰と違い、のりを混ぜずに塗っていきます。

施工直後は茶色っぽい色でしたが、時間が経ち修理後には白い壁になっているのがわかります。黒漆喰は、白の漆喰を塗った上に、石灰に油煙とのりを混ぜたものを薄く塗り重ね、鏝で何度も押さえていきます。加藤左官工業では、つくるのに1年ほど手をかけた黒漆喰を使うそうです。

今回は、文化財の修理などを行っている加藤左官工業が工事を行いました。加藤信幸さんを筆頭に、大竹真紀子さん、山口由香さんの三人の左官職人が4か月にわたり携わってくださいました。松五郎の線書きと同じように、修理内容を記録することで、土蔵の歴史も積み重ねられていきます。



修理前の基礎周辺部



樽巻きと呼ばれる工程



腰壁上塗り（土佐漆喰）



2階扉のむら直し



2階扉の中塗り



お椀に入っているのが黒漆喰



修理後の腰壁



修理後の2階扉



修理後の土蔵遠景

区登録有形文化財

旧清水家住宅書院の修理

平成25年（2013）に区立二子玉川公園の帰真園内に復原した旧清水家住宅書院は、移築復原から約10年が経過し、建具の動きに支障がみられるようになり修理を行いました。

○建具の不具合はどうして起こるのでしょうか

この書院は瓦葺の伝統的な木構造で造られています。幅が大きな開口部は鴨居が下がらないように、鴨居に取り付けた吊束という部材を天井裏の梁に固定して吊上げる工夫がされています。しかし、屋根に重たい瓦が載っていること、木材が伸縮することなどの理由で、鴨居が下がり建具が動きにくくなることがあります。修理では、鴨居を元の高さに戻す作業を行いました。

○主な不具合と修理の内容

①北側縁の外部雨戸の開閉が困難

→ 小屋裏（天井裏）の桔木で跳ね上げを調整し、鴨居を引き上げる。



①の修理作業。桔木の位置を調整し、固定している羽子板ボルトを付け替えました。補助的に、鴨居をジャッキアップしています。

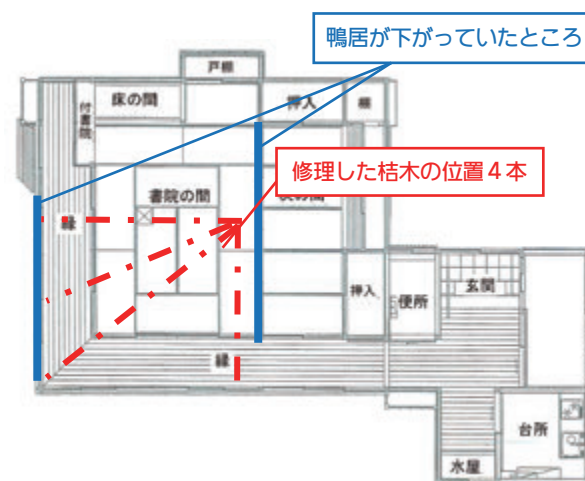
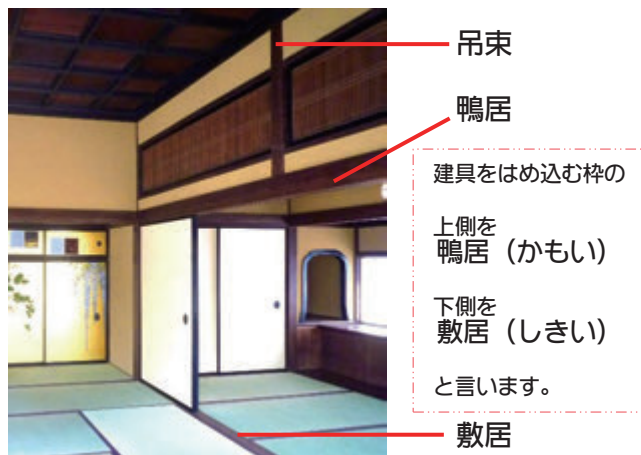
桔木はテコの原理を利用した、天井裏に長く配した部材です。端部を固定（この建物では羽子板ボルトを使用）して、一方の端で軒先を跳ね上げています。

②座敷境の襖戸の開閉が困難

→ 吊束を小屋裏で引き上げる。



②の修理作業。吊束の両側に設置したボルトを締めあげ、吊束を引き上げています。連動して鴨居も上がる仕組みです。①と同じく鴨居のジャッキアップも行いました。



日本は木材が豊富で、古くから木造建築の技術が発達してきました。しかし、木材は石造りの建物と違って、劣化や腐食が起こりやすい特性を持っています。私たちの祖先は、こうした特性と向き合い、修理しながら建物を維持していました。日本の匠の技は、修理する技術でもあるのです。

文化財は100年単位で大規模な解体修理を行い、劣化した部材を取り替え、構造補強を行いながら維持されます。そして、数年単位で小さな破損や劣化を修理することで、大規模な解体修理までの期間を長くすることができます。日々、手を掛けることで文化財として後世に継承されていくのです。

近年、「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。こうした技術が日本の伝統文化を支えていることに、今一度目を向けてみてはいかがでしょうか。

都指定史跡 等々力溪谷三号横穴 の扉が綺麗になりました

昭和50年2月6日指定 等々力一丁目22番 区立等々力溪谷公園

等々力溪谷^{おうけつ}三号横穴は、6基以上からなる等々力溪谷横穴墓群のひとつです。現地には、典型的な横穴墓の形態を留めており、埋葬人骨や副葬品が良好であったことから保存処置がなされた三号横穴のみが残っています。

横穴墓奥壁部分に剥落が生じており、修理に向け内部の状態を調査するため現地へ赴いたところ、横穴墓保護及び内部が見学できるように設置した扉が、土の堆積によって開閉できない状況でした。このため、まずは令和4年度に扉の修理（交換）を実施しました。

都指定史跡であるため、東京都教育庁と協議をしながら保存修理を進め、令和4年11月に扉の修理が完了しました。新しくなった扉は透過度が高く、横穴奥部までの見通しが良好になりました。

令和5年度は内部を調査し、剥落箇所の保存修理を実施する予定です。

修理前



修理後



国指定重要文化財

野毛大塚古墳出土品の保存修理が完了しました

平成28年8月17日指定 世田谷一丁目29番18号 世田谷区立郷土資料館

経過

平成30年度 第1主体部鉄製品（甲冑・刀剣類）

令和元年度 第1・3主体部鉄製品（刀剣類）

令和2年度 第1・3主体部鉄製品（刀剣類、鏃）・青銅製品（鏡、釧）・ガラス製品（勾玉）

令和3年度 埴輪・第4主体部鉄製品（刀剣類・槍）

令和4年度 埴輪・土師器等

金属製品等の経年劣化が進んでいたことから、平成30年度より5カ年にわたり保存のための修理を実施してきました。保存修理の成果は、令和5年8月の区立郷土資料館リニューアルオープン後に展示する予定です。



短甲修理前



短甲修理後

世田谷区文化財解説ボランティア

令和3年11月より開始した文化財解説ボランティアは、野毛大塚古墳と等々力溪谷を活動場所としています。解説時間は10分程度ですが、熱心な質問が多く、解説にも熱がこもります。

一年を通じ最も多い質問は、野毛大塚古墳では「出土した副葬品はどこで見られる？今どうなっている？」と被葬者にまつわることですが、等々力溪谷では地層や動植物など、興味も多岐に渡るようです。毎週水曜・土曜に等々力溪谷広場、毎週土曜に野毛大塚古墳墳頂にて解説を行っています。



等々力溪谷での解説

光る匠のわざ体験

～古いたてものの技術を使って泥だんごを作ろう～

開催：令和4年7月25日（土）

会場：世田谷代官屋敷（重要文化財大場家住宅）

代官屋敷をはじめ古民家は、日本の伝統建築を支える「わざ」によって、その姿を維持しています。この日は、左官の漆喰塗りなどの「わざ」を小学3～6年生が体験しました。

古民家の壁に塗られる漆喰は、表面を^{こて}鏝で何度も磨くことで輝きと強度が増します。この技術を応用し、磨けば磨くほどピカピカになる泥だんごを作りました。「磨き終わったときの達成感があった。」、「昔の技術にふれることができた。」といった感想をいただきました。



青色・赤色・白色・黄色に輝く泥だんごを作りました

ドキ土器！ 粘土で作るむかしの器

開催：令和4年8月20日（土）

会場：世田谷区教育会館3階「ぎんが」

新・才能の芽を育てる体験学習の講座の一環として、区内の小学校1～3年生を対象に、夏休み自由研究の題材となるよう8月に実施しました。大変多くの応募があり、抽選により午前・午後各25人の計50人に参加いただきました。当日はオープン粘土を使用し、昔の人が実際に使用していた器（土器）を作りました。また、見本となるよう世田谷区内から実際に出土した土器を展示し、世田谷区の歴史や文化財について楽しく学ぶ体験学習となりました。



個性豊かな土器ができました

香道入門教室

～菊合わせ香～

開催：令和4年10月15日（土）

会場：旧清水邸書院（区登録有形文化財旧清水家住宅書院）

二子玉川公園帰真園内にある旧清水家住宅書院（通称：旧清水邸書院）の中で日本の伝統文化をより親しんでいただくため、「香道入門教室」を実施しました。講師の指導のもと、数種類の香木の香りを聞いて、その違いを判じる組香を行いました。今回の組香は「菊合香」と題して、季節を香で感じる風流を体験しました。香道を初めて体験された皆さんからは、「とても微妙な違い



香満ちました

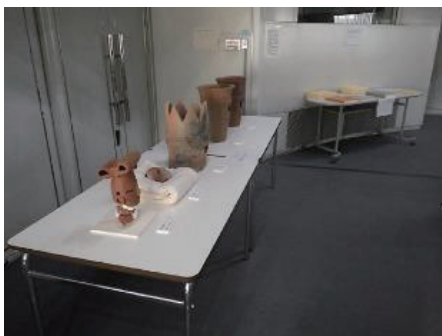
で難しかったですが、とても楽しく勉強になりました。」、「心おだやかな良い時間を過ごせました。」という声をいただきました。

第15回 世田谷区遺跡調査・研究発表会

開催：令和4年10月29日（土）
会場：世田谷区教育会館3階「ぎんが」

世田谷区内の遺跡に関する調査や研究報告は、近年新型コロナウイルス感染症拡大のため開催を中止していましたが、今年度は、感染防止対策にご協力いただきながら、教育会館3階の「ぎんが」にて実施しました。

第15回となる今回は、区学芸員による令和3年度に実施した発掘調査についての報告や、東京学芸大学教授の日高慎先生による「東国の埴輪生産と流通」に関する講演を行いました。また、講演でも紹介のあった、区内で出土した埴輪の実物を展示しました。



出土した埴輪の展示

せたがや歴史文化物語 国分寺崖線沿いのみどりと近代建築を巡る

開催：令和4年11月12日（土）

「せたがや歴史文化物語」は、区内の文化財の魅力を高め、分かりやすくその価値を伝えようとはじめられた事業です。各々の文化財が持つストーリーを関連付けて紹介したり、ワークショップにご参加の方から集まった質問などをもとに、「なぞなぞブック」を発行しています。

平成29年より始まり、今年で5回目となります。今回は「国分寺崖線沿いのみどりと近代建築を巡る」と題して、旧小坂家住宅や静嘉堂文庫（現在は庭園のみ公開）といった近代建築が、なぜ岡本の国分寺崖線沿いに集まったのか、思いを巡らしながらまち歩きを行いました。

午前中は、岡本に現存する近代建築を訪ね、国分寺崖線の豊かな自然や高低差を体感し、歴史や地形を肌で感じました。午後は、グループに分かれてワークショップを行い、「なぞなぞブック」のアイデアを出し合いました。「区内にどのくらい別邸があったのか」「国分寺崖線に貴重な自然が残っていることを伝えたい」など、様々なアイデアが出ました。ワークショップでの意見をもとに、来年度に「なぞなぞブック」を発行する予定です。



静嘉堂文庫での解説



まち歩きで国分寺崖線を体感



ワークショップの成果発表

小学校での郷土学習

郷土「せたがや」を学ぶ機会を提供し、貴重な文化財や物的としています。

郷土歴史文化特別授業

特別授業5校（小学6年生）：令和4年6～7月
特別展示4校（小学6年生）：令和4年6～10月
野外授業1校（小学3年生）：令和4年11月

文化財係では、世田谷区内から実際に出土した土器や石器等の実物を見て触って体験する授業や、小学校の近くから出土した土器や石器等の展示を行っています。

授業では、実物の土器や石器を見ながら積極的に質問があり、関心を深めてくれるようすがみられました。授業後には「普段は教科書などでしか見られない物だけど、実際に触れて良かった。」「昔の人は、工夫して土などの自然のものを使って作っていたことが分かった。」などの感想を聞くことができました。

歴史・文化を継承する次世代の子どもたちを育むことを目的

「世田谷の郷土学習」出張授業

出張授業10校（小学3年生）：令和4年9月～令和5年3月

郷土資料館及び民家園係では、学芸員が区内小学校で授業を行いました。世田谷の移り変わりや昔の暮らし、学校周辺の歴史などについての解説や、区内の農家で使われていた昔の道具の体験を行うなど、世田谷の歴史文化を学ぶ授業を実施しました。



古写真や地図を使った解説



肥桶担ぎ体験

郷土資料館事業

野外歴史教室

吉良氏ゆかりの地めぐり ～駒沢公園通り沿いの旧蹟

開催：令和4年5月18日（水）

今回の野外歴史教室は、主に駒沢公園通りを北から南へと歩き、この道に沿って点在している中世の世田谷領主・吉良氏にゆかりある場所（円光院、常在寺、長徳寺旧地《弦巻2丁目》、深沢神社、奥沢城跡《現在の浄真寺》など）を訪ねた新設のコースです。

吉良氏の本拠・世田谷城（現在の豪徳寺）と、支城である奥沢城（現在の浄真寺）を結ぶ古道があったと推測されるこのルートを、約3時間かけ巡りました。



ゴールの浄真寺

民家園事業

次大夫堀公園民家園・企画展 農村と草花

開催：令和4年11月1日（火）から
令和5年1月1日（日・祝）まで

次大夫堀公園民家園にて、昭和初期頃の世田谷における田畑や雑木林、屋敷などに生息した草花をテーマに、暮らしに見られた行事や習俗における利用について紹介しました。

旧城田家住宅主屋（区指定有形民俗文化財）では、草花を使った食や道具などを展示し、暮らしに関わる草花について紹介しました。



草花を使った食（再現資料）の展示

次大夫堀公園民家園・民家の伝統技術 茅葺きの技術

開催：令和4年10月9日（日）

旧安藤家住宅、旧城田家住宅主屋、旧長崎家住宅といった文化財の茅葺き屋根補修工事にあわせて、茅葺き屋根を葺く技術や材料等について解説と、茅葺き職人による実演・体験を行いました。



茅葺き職人指導による茅束づくり体験

世田谷デジタルミュージアム

世田谷デジタルミュージアムとは、世田谷区内の文化財や関連資料をデジタルアーカイブ化した、誰もが気軽に貴重な文化財に触れることができるサイトです。

郷土資料館や民家園で収蔵している、普段見ることのできない収蔵資料を見ることができ、歴史・文化に関する様々なコンテンツを公開しています。ぜひご覧ください。



サイトへのアクセスは
こちらから

世田谷デジタルミュージアム

検索

<https://setagayadigitalmuseum.jp/>



世田谷区内文化財紹介動画



せたがやデジタルミュージアム内の「文化財記録映画紹介」及び世田谷区公式YouTubeチャンネルにて、区内文化財の紹介動画を公開しています。

New! 新たに公開した動画

区内文化財紹介動画「静嘉堂文庫」

★通常非公開の文庫建物内部も見られます。

区指定無形民俗文化財「喜多見のまむしよけ」

★蛇除けのおふだづくりと毒消しのまじないを紹介しています。

文化財係移転のお知らせ

生涯学習・地域学校連携課文化財係は

令和4年5月23日より、

区役所第2庁舎3階から

教育会館3階（世田谷区弦巻3丁目16番8号）

へ移転しています。

課名変更のお知らせ

生涯学習・地域学校連携課は

令和5年4月1日より、

組織改正のため

「生涯学習課」となります。

